

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 163 2011年10月 発行

OB会員160名が参加し、「脱原発」の声が都心に溢れた

9.19

「さようなら原発」集会に6万人が集まる

「脱原発」をめざすノーベル賞作家の大江健三郎氏や作家の落合恵子さんらが呼びかけた「さようなら原発5万人集会」が9月19日に東京・明治公園で開催され、全国各地から6万人が集まりました。
JR総連からは東労組を始め貨物労組、東海労の組合員や家族が1500名参加しました。OB会も首都圏近郊に在住する会員を中心に160名が集まり、晴れ渡った秋空に「原発いらない」「子供を守れ」「自然を守れ」と脱原発を訴える元気な声が響き渡りました。

会場舞台には著名人がズラリ

会場となった明治公園の舞台の上には、この日の集会の呼びかけ人である作家の大江健三郎さんやルポライターの鎌田慧さん、テレビのコメンテーターをしている作家の落合恵子さん、そして来賓の俳優・山本太郎さんがズラリと顔を揃えました。

発言に立った大江健三郎さんは、イタリアの原発に関する国民投票で反対が9割を占めたことに対し、自民党・石原伸晃幹事長が「集団ヒステリー状態になるのは心憎として分かる」と発言したことを批判しながら、「イタリアでは人間の命が原発により脅かされることはないが、日本人はこれからも原発事故を恐れなければならぬ」と「脱原発」を強く訴えました。

会場内はプラカードや横断幕

明治公園は全国各地から集まった集会参加者で埋めつくされ、会場から溢れ出る人も出ました。参加者は小さな子供連れの若夫婦から学生、かつての闘士とおぼしき老人達がゼッケンや身にまとい、幟旗や横断幕、風船等を持って華やかに彩られていました。しかし、そこには連合加盟の主要組合の旗は見え、「脱原発」の闘いは市民運動としてしか展開されていないことが一目瞭然でした。



会旗を先頭にしてデモ行進に出発する姿は圧巻でした。

都心にこだまするシュプレヒコール

デモ行進は3コースに分かれて行われ、JR総連の隊列は新宿コースを行進しました。OBの中にはすでに現役を退いてから20年以上も経っている人もおり、現役組合員と同じコースで大丈夫かと心配する人もいましたが、誰一人途中でリタイアする人もなく、最後まで行進をやり遂げました。

この日、都心は「原発反対」「子供を守ろう」「地球を守ろう」などの元気な声が響き渡りました。この日のOB会員たちは「まだまだやれるぞ」と大いに自信をつけ、更なる闘いへの決起を参加者みんなで確認しました。

OB声の広場

JR東労組OB会による 9/8、9被災地調査と 被災家族の激励行動に参加して

◇ 本部OB会主催による激励行動に参加して、地震当日の生々しい体験談や現地調査で被害の甚大さに改めて実感するものがありました。
◇ 3・11東日本大震災から早くも6ヶ月が経過した今日、いまなお遅々として復興への道筋が見えてこないことに強い怒りを感じました。

◇ 被災者との激励・交流会では、盛岡・仙台の四夫妻が参加され、津波から難を逃れ九死に一生を得た、凄まじい当日の体験が話され、更に家屋を流され現在の生活状況などを語られました。そこには、被災されたという暗い語り口や弱音はなく、元気でむしろ今後の復興に向けた力強さすら感じられるものがありました。そして、OB会員による被災者支援の義援金に対する感謝のことが述べられました。改めて、「ヒューマニズム」を基調とするJR東労組に加入して良かったとの熱い思いが語られました。交流会ではひと時ではあれ厳しさを忘れ盛岡、仙台地方の民謡などの余興も入り盛況となりました。

◇ さて、翌日は8時30分に出発し被災地へと向かいました。現地は徐々にはあれ、瓦礫は片づけられつつありますが、住める状況にはなく、復興への道のりは遠く感じられました。
◇ 仙石線（現在も不通）の野蒜駅ではホームや線路は荒れ果て、架線は垂れ下がりがり鉄柱は折れたまま、駅玄関の時計は地震発生時の14時46分で止まったまま、この地はいまだ時間が止まったままです。

◇ 仙台地本の方から現職組合員によるボランティア活動（東松島地区）が報告され、その奮闘が明らかにされています。
◇ 石巻市では死者、不明者4,148人（9月現在）の犠牲者が出ました。日和山公園から見る海岸線の市街は見る影もなく建物の大半が流失し焼け野原同然です。その被害の大きさを物語っています。

◇ 調査団は全員で犠牲者への献花と黙祷をして、ご冥福をお祈りしました。私たちOB会は今回の行動に参加し被災して「被災しながらも元気でたくましく前向きに奮闘している被災家族から生きる多くのことを」学びとると共に、一日も早く震災からの復興への道を切り拓くこと、そして、この現実を多くの仲間伝えて自分ができるかを痛感しました。

東京地本OB会 (F・S)

＜水戸地本OB会・第14回定期総会報告＞

新会長に鈴木孝雄氏を選出

水戸地本OB会 事務局長 江幡 隆 則

今年の定期総会は、東日本大震災で常磐線が大きな被害を受け、復旧の見込みもなく、開催が危ぶまれましたが、いわき・原ノ町地区のOB会員の努力と熱意で、何とか開催にこぎつけることが出来ました。

水戸地本OB会・第14回定期総会は、8月28日、水戸支社・会議室で総勢32名が出席して開催されました。

郡司会長は、任期途中で病で倒れ、2ヶ月入院後、現在リハビリ中でありながら、総会に元気な姿を見せてくれました。今後は体調回復に向けた生活に専念するため、第一線から退く考えを表明されました。

また本部OB会からは大熊会長・伊藤事務局長が参加され、大熊会長からは、3・11東日本大震災の義援金の取り組みで、OB会員の協力により450万円強のカンパ金が集まったことへのお礼と、盛岡・仙台・千葉の各地本の被災者に義援金を届けたことが報告されました。同時に水戸地本OB会員で被災された方々には、一層の調査・把握の上で支部OB会が届けるよう要請されました。また原発のない社会を子供達に残すためにわれわれOBが脱原発の闘いをしっかりと取り組まなければならないと訴えました。

地本OB担当の平山副委員長は、原発事故の影響で常磐線の久ノ浜～仙台間の中間地点に当たる原ノ町地域の職場が閉鎖になり、組合員はいわき以南の職場に兼務発令され苦悩していることや、脱原発で闘っていくことを地本大会で確認されたことが報告されました。

経過と方針が提案された後、質疑が交わされ、①3・11東日本大震災で多くの犠牲者と行方不明者が出ていること、②OB会員を含め、原発事故で避難を余儀なくされ、いつ戻れるかわからない不安な日々を過ごしていること、③水戸支部OB会が結成されて2年目の8月27日に支部政策フォーラムで現役時代の経験から「組合員でありながら組合活動に協力しない人に対する向かい方」を若い組合員に訴えたこと、④原ノ町支部OB会から震災の生々しい報告、⑤地本OB会が原ノ町支部を激励したことに対するお礼、等の意見が出されました。

活発な意見が多く出されたことで大成功に終わり、今後のOB会組織

◆2011年度の役員体制は次の通りです。

顧問 栗田克實 会長 鈴木孝雄 副会長 狩谷光治
事務局長 江幡隆則 事務局次長 平山美隆

＜仙台地本OB会・第15回定期総会報告＞

大震災を乗り越え、一層の組織強化を！

仙台地本OB会 事務局長 林 英夫

3・11「東日本大震災」の影響で大幅に遅れた第15回定期総会は、8月10日仙台地本・会議室において60名の参加者を得て開催されました。平井副会長の開会の挨拶後、議長に福島支部の加藤さんを選出し、議事が進められました。

渡辺OB会長は「3・11東日本大震災は、地震・津波・原発事故と3重の被害を受け、宮城・福島では多くの人々が今なお避難生活を余儀なくされ、特に原発被害に見舞われた人達は、前途の見えない状態におかれており、私達も原点に立ち返って原発に対する態度を示す必要がある。また鉄道は列車が走って初めて機能を果たす。寸断された線路の一日も早い復旧を目指していこう」と呼び掛けました。

来賓として本部OB会より大熊会長、佐々木副会長、仙台地本の氏家委員長、三選を果たした福島市議の羽田房男氏が出席されました。

大熊会長からは「田城氏を当選させたが、今後はOB会が抱えている問題や弱い立場の人達のために奮闘してもらい、それを皆で支援していこう。被災された会員にはOB会の相互扶助の精神で支援していこう」と話がありました。

質疑では、①カンパの使途の明確化、②宮城・福島の会員は大震災で大変だったが、私達に出来るのはカンパ位しかないで、これからも取り組んで行く、③原発事故を踏まえ、脱原発を目指して闘う、④中国の鉄道事故を見聞きしてJR東労組の安全第一の取り組みの正しさを再認識した、⑤今日のJR東日本経営陣の経営の在り方に危惧を感じる、⑥美世志会への支援の強化について、⑥エルダー制度の在り方について、等の多くの意見が出されました。

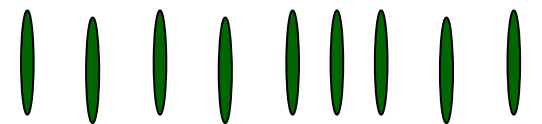
執行部より、①組織強化に向け今後も努力していく、②カンパは仙台独自の取り組みも考えたい、③脱原発の取り組みを強力に進める、等の答弁があり、経過・方針が満場一致で承認されました。

2部の懇親会は、近藤新副会長の司会で始まり、各会員が遭遇した3・11の様子を話し合ったり、ケルジ山に合った会員同士

◆2011年度の役員体制は次の通りです。

顧問 小田島正 会長 渡辺利廣 副会長 平井謙一
副会長 近藤寿一 副会長 佐藤孝人 事務局長 林 英夫
事務局次長 千田正勝 事務局次長 今野利悦(OB担当)

＜本の紹介＞



〔著者・絵鳩 毅〕

98歳の絵鳩 毅さんは、中国で軍隊生活を体験し、敗戦後シベリアで5年間抑留された後、中国の撫順戦犯管理所に6年間収容された人です。

「撫順戦犯管理所の6年」「シベリア抑留の5年」に続く、第3弾の「皇軍兵士の4年」が発刊されました。

＜申し込み先＞

撫順の奇蹟を受け継ぐ会 神奈川支部
松山 英司
☎ 046-871-4263
JR東労組 本部OB会でも取り次ぎます。

『我らの声』原稿募集します！

今年「東日本大震災」と「東電・福島第一原発事故」という大きな出来事がありました。

私たちOB会は被災者を支援しながら、超高齢化社会を迎える中で、高齢者の直面する諸問題に挑戦しながら、暮らしやすい社会の実現を目指して頑張っていくいきます。

本部OB会は、親しみやすい『我らの声』Jpanes's、編集委員会を開きながら、多くのOB会員に原稿募集を呼び掛けることになりました。

特に今回は、自慢の特技や趣味を持っている人や、家族を介護されている人、介護・福祉関係の仕事をしている会員の応募を期待しています。

- 原稿は形式自由で、概ね1000字以内で写真をつければOK。
- 地震も原発事故もめざましい、高齢化の進展で将来が危惧されます。テーマは自由でおのれ書ここの応募ください。
- 原稿締切は例年より1ヶ月早く10月31日です。期限は厳守してください。
- 原稿の送付先は、各地本のOB担当またはOB会役員まで。

